

全校のみなさん、おはようございます。

昨日からの三日間、一日体験入学が行われています。高校生の皆さんは普段通りの学校生活をおくりながら、中学生をしっかりと迎えましょう。中学生の皆さんは、高校生の姿を通して高校生活をイメージしていただけだと思います。

さて、皆さんがお聞きになっているこの放送は「朝の法話」といいます。瞑想の姿勢で、心を落ち着けて、聞こえてくる法話の言葉に耳を傾けてください。

「仏教を勉強すると、自分はどう変わるの？」と思う人もいるかもしれませんが。心がきれいになったり、頭がよくなったりすることを期待する人もいるかもしれませんが、残念ながら、仏教にはそのような効果はありません。仏教は「自分を変える」ための教えではないのです。

仏教は「鏡」に喩えられることがあります。「鏡」は自分の姿を写すものです。「鏡」をいくら見つめても、自分の姿が変わることはありませんが、「鏡」を通して自分を見つめることで、自分がどんな姿をしているのかを確かめることができます。仏教は自分を変えるためではなく、自分の生き方を確かめるためにあるのです。

伊那西高校が大切にしている「和顔愛語」という言葉があります。ロータリーの花壇のところに、「和顔愛語」と書かれた石碑があります。『大無量寿経』という仏教のお経の中にある言葉ですが、それを「和やかな顔、美しい言葉」と表現して、本校では大切にしています。

しかし、この言葉は「和やかな顔になりなさい、美しい言葉を使いなさい」と強制して、私たちのことを変えようとする言葉ではありません。「今、あなたはどのような顔で過ごしていますか？あなたはどんな言葉を使っていますか？」と、私たちに問いかけてくれている言葉なのです。

周りから自分がどう見られているかが気になったり、自分と周りを比べることばかりを考えていると「和やかな顔」にはなれないですね。また、自分中心になって、文句や人を傷つけるような言葉を使っていると「美しい言葉」とは言えませぬ。そういう自分に気が付くと、自然と自分の生き方も変わっていくものです。